

助動詞「らし・めり・なり」確認テスト（推定） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 イ（根拠のある推定）。「風の音」という確かな根拠をもとに「秋が来たらしい」と推定している。「らし」は確かな根拠に基づく推定を表す。

問2 終止形。文末で言い切っているため。（「らし」は終止形と連体形が同形だが、ここは文末で言い切る終止形。）

問3 イ（視覚による推定）。「めり」は目で見えた事柄をもとにした推定・婉曲を表す。月が傾いていく様子を見て述べている。

問4 終止形。文末で言い切っている。

問5 イ（終止形）。「めり」は終止形接続。四段動詞「かたぶく」の終止形「かたぶく」に付いている。（「月がかたぶく」は「月が沈みかかる」という自動詞で、カ行四段活用。下二段の「かたぶく」は「～を傾ける」という他動詞である。）

問6 ウ（聴覚による推定・伝聞）。「なり」は音や声を耳で聞いたことに基づく推定を表す。鹿の鳴き声が聞こえてくる場面である。

問7 終止形。文末で言い切っている。（「、」で句切れているが、ここでは言い切りの終止形と見る。）

問8 イ（終止形）。「なり」は終止形接続。四段動詞「鳴く」の終止形「鳴く」に付いている。

問9 ウ（断定の助動詞を含む語）。「清らなり」はナリ活用の形容動詞で、「なり」は活用語尾（断定の助動詞「なり」に由来）。推定・伝聞ではない。

問10 断定。「歌人」という体言に付いており、「～である」と断定している。

問11 終止形。文末で言い切っている。

問12 推定（聴覚）。下二段動詞「聞こゆ」の終止形「聞こゆ」に付いており、「鐘の音が聞こえてくるようだ」と音・声を根拠とする推定だから。体言や連体形ではなく終止形に接続している点も推定の根拠となる。

問13 連体形。「めり」は終止形接続だが、ラ変型の活用語には連体形に付く（ラ変型は終止形と連体形で語形が異なり、「めり・なり」は連体形に接続するため）。よって「あり」の連体形「ある」に付いて「あるめり」となる。

問14 ア（終止形）。⑬「なりぬなり」は「成り（四段連用形）＋ぬ（完了・終止形）＋なり（推定）」。「なり・めり」は終止形接続で、連体形接続になるのはラ変型の活用語の場合のみ。完了「ぬ」はナ変型でラ変型ではないため、終止形「ぬ」に付いて「ぬなり」となる（連体形「ぬる」に付くなら「ぬるなり」になるはずである）。よって直前は終止形。

問15 ④らし＝根拠（庭が白いという根拠から「花が散るらしい」と推定）／⑤めり＝視覚（空がひどく暗いのを見て「雨が降るようだ」）／⑥なり＝聴覚（笛の音を聞いて「笛の音がするようだ」）。

問16 (1) 秋が来たらしい。(2) 月が傾いていくように見える (月が傾くようだ)。(3) 鹿が鳴いている (鳴く声が聞こえる)。

問17 (1) 笛の音がするようだ (笛の音が聞こえる)。(2) 桜が咲いているらしい。

問18 ③=推定 (聴覚による推定・伝聞) / ④=断定。③は動詞の終止形「鳴く」に付き音を根拠とする推定、④は体言「形見」に付く断定。

問19 推定の「なり」は活用語の終止形 (ラ変型は連体形) に接続するのに対し、断定の「なり」は体言や連体形に接続する。⑥は「音す」の終止形に付くので推定、④は体言「形見」に付くので断定、と接続によって見分ける。

問20 (1) 亡き親の形見である。(2) (主人は) まだ寝てしまっているようだ (寝ているように見える)。

問21 「めり」は目で見たことを根拠とする視覚による推定を表し、「なり」は音や声を耳で聞いたことを根拠とする聴覚による推定・伝聞を表す点で異なる。(例：視覚の「めり」、聴覚の「なり」)

問22 <接続>推定の「なり」は活用語の終止形 (ラ変型は連体形) に付き、断定の「なり」は体言または連体形に付く。<意味>推定の「なり」は音・声を根拠に「~のようだ・~という」と推し量る意を表し、断定の「なり」は「~である」と断定する意を表す。体言の下にあれば断定、終止形の下にあつて音・声が根拠なら推定、と判断する。